

残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(119号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL/0225-96-1497 Email/hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 ー

●代表/阿部 ー ●副代表/菊池せい子



イエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。II Peter 3/18

信仰：主を知り、恵みを思い起こす

- 例年にない大雪と厳しい寒さが続きましたが、皆さまは健康が守られて御元気で過ごすごでしょうか。
- 私たちの群も信徒だけの「家の教会」として、今月半ばで10年もの長い間、主と皆さまに支えられて、新たな11年目の活動に入ります。これは奇蹟という他はありません。感謝を持ってさらに忠実な歩みをしたいと願っています。
- 私たちの11年目の歩みに向けて祈っているときに、ペテロ第二の手紙を読んで「私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。」(3/18)というみことばに励まされています。
- この手紙には、「知る」と「思い起こす」ということが多く目につきます。この「知る」は、ヘレニズム的な知識ではなくヘブル的な「主を恐れることは知識の初めである」(箴言1/7)と聖書は教えています。そこで「神の方が先に私たちを知って下さっている」ということを知ることです。そして、思い起こすべきこととは「神の恵み」です。
- その2つにおいて「成長しなさい」と言われると、日本人はつい自分の力や努力をして頑張ることだと理解して、真面目な人ほど自分の力に頼り、目標とその努力にともなわない自分の現実のギャップに悩んでしまいます。
- 「どうにもならない自分があるのままで救い出された恵み」に目を留め、神の一方的な憐れみと恵みを思い起こす人が少ないのではないのでしょうか。そこにこの世の価値観というサタンの誘惑のことばが信徒や教会に忍び込みます。その結果、偽預言者がうまれ、信徒が惑わされるのもこれが原因です。
- だからこそ、私たちは信仰によってアブラハムの契約に基づく祝福と相続が得られる者と「既に」されていることに、いつも目を留めている必要があるのです。
- 現代に生きる私たちは、その恵みや約束を聖書のみことばによって知らされます。聖書は聖霊に動かされた人々によって神のことばを書き記された隠された奥義です。
- そこで、私たちは人間的な知識ではなく、御霊の助けによらなければ分かりません。よって真摯に神に向き合い、神がそこで何を語っているかを信仰を持って聞く姿勢が求められます。聖書的には「知る」とは、単なる知ることではなく「知って、従う」事を意味しています。
- そして、私たちもその「イエス・キリストの恵みと知識において」歩むとき、主の再臨や終末の聖書的な意味が分かり、偽預言者をも識別する力が与えられます。
- 信仰によってこの恵みに立つとき、聖霊が働き、委ねることによって求められている徳・知識・自制・忍耐・敬虔・兄弟愛・愛が身に付けられるように変えられて行くのです。
- 自分が与えられた場所で、神を畏れ、主の導きを信じて謙遜に、かつ積極的に生きることこそ、主の恵みの最大の証しとなるのであり、伝道なのです。
- この月も、共にイエス・キリストの恵みと知識において成長させていただきましょう。風邪を召さないように祈りながら。

先月の多くの恵みから

- ① 12/30に、秋田の割り箸書道家斎藤美津子さんより、今年も励ましのことばを割り箸で書いた「2018年度愛の心葉カレンダー」300部を献品いただき、市内の5つの教会に50部ずつ届けることが出来ました。
- ② 12/26に元立命館大学の三浦正行先生が学会の用事で仙台にお出でになったと私たちの群を訪問下さいました。
- ③ 佐々木姉は、昨年お母さんを天に送り、家屋を整理して、

義弟の所で仕事をするために仙台に転居しました。アパートに近い仙台福音キリスト教会に転籍の手続きをとりました。

④ 10-11月に、地方紙「石巻かほく」のコラム「つつじ野」に9回にわたり、被災支援についてなど書く機会が与えられました。そのことで40年前や20年前の教え子の訪問と多くの知人や市民から「読みましたよ」と声をかけていただきました。

⑤ 12/21に、東京の藤井兄より聖書同盟発行の岳藤豪希編著「みことばのうた」(聖句にメロディーを付けたもの)の楽譜付きCDを献品いただきました。

⑥ 12/22に、牧野直之・伊豆師ご夫妻よりメールを通して近況のお働きの様子と励ましのニューズレターをいただき感謝しました。また、森 和亮師からは最近作られた聖書の中で難解と言われるルカ16/1-12の説教のトラクト「友達を作りなさい」を送って頂きました。

⑦ 1/2に娘が奉仕している仙台荒CCの阿部ご夫妻が訪問下さり、主にあるお交わりの中で、神の憐れみと祝福の証しを伺い、共に神を賛美し、祈りの時を持つことが出来ました。

⑧ 年末と1月に、教会活動や支援活動のために沢山の兄弟より献金や献品、励ましの手紙、年賀状を、また、宮城三陸3.11東日本追悼記念会のための指定献金も捧げて頂き心から感謝いたします。

■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

- ① 自宅で療養中の大平姉と求道中のガンと闘っている今野かつ子さん、千葉信一兄(盛岡BBC会員で石巻勤務)のご家族の健康、3月に手術予定の奥様のために。
- ② 市内の新しく開拓を始めた教会に、教会を支える地元の家族が救われるようにお祈り下さい。3.11追悼記念会の祝福のために

群の定期集会

- ・礼拝 (毎週日曜日) 10:00-11:30
- ・祈り会 (毎週水曜日) 10:00-11:30
- ・聖書を読む会(第1火曜日) 10:30-12:00
- ・ほっと・Time (第3火曜日) 10:30-12:00
- ・コーラス「花」(第2,4木曜日) 13:30-15:00
- ・楽しい手芸 (第2,4月曜日) 10:00-12:00
- ・学習支援 (地域の子どもの要望に応じて)

信仰を詠う

2月 一粒の麦の種 ヨハネ12/24

コール師の蒔かれし種は被災者の
キルトの集い笑顔の実となる
とびつ切りの作品できる喜びは
一粒の種の主のみ愛から
支援者の背を押す力 「あなたがたは
互いに愛し合いなさい」なのね



阿部 八重子

戦後石巻で15年間布教活動をされた Fコール牧師のご子息 T. Cole が被災した人達が悲しみをひととき忘れて美しいものを作る様にとカナダの教会から祈りをこめたフレンドシップキルトとたくさんの布地、ミシン等をプレゼントして下さいました。一粒の麦の種、実となりました。

12月末から1末までに来訪された先生・兄妹/「祈りの家」の地区教会活動との関わり

愛と希望のコンサート

大震災を覚える追悼記念会

この日、「愛と希望」を奏でる音楽とともに追悼のひとときを。
悲しみを受け入れ、實り合い、贈りあひながら歩めるように。

3月10日(土)

会場 南三陸ホテル観洋
住所 宮城県宮城郡南三陸町黒崎 99-17

時間 12:30~15:00

～コンサート出演アーティスト～

・小坂 忠 ・森 祐理
・Migiwa ・上原 令子

入場
無料

南三陸3.11東日本大震災追悼記念会

主催：宮城三陸3.11 東日本大震災追悼記念会準備委員会
共催：南三陸ホテル観洋



1/2荒井CCの阿部夫妻訪問



1/21メンターのSBS校長の森谷正志師礼拝奉仕



石巻もこの通り真っ白に



愛の心葉カレンダー



コーラス「花」の初練習



祈り会での「信仰問答」の勉強



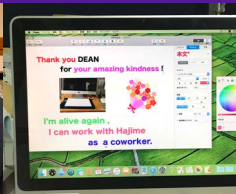
ほっと・TimeでNYConcert



10年間の相棒 iMac dead!



何と専門店もダメと言われた我が相棒 iMac をDean師がRecovery! 感謝!



精木先生よりキンカン、菅原兄姉よりはずんだ餅が届く



アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在りの意

信仰の歩みの中で

神と共に歩む

仙台南吉成キリスト教会員 鈴木 真理

「石巻に、阿部一先生という方がおられるはずなんですけど…」「阿部は私ですが…」「えっ!」…この会話は、2011年夏、石巻・新館地区の畑のヘドロ除去のお手伝いをしていた時の、阿部兄と私の会話です。キリスト者学生会の大先輩として、阿部兄の名前は卒業生名簿に載っており、私は事務局をしていたので、お名前と、その方が石巻におられる事だけは存じていたのですが、そんな形でお会いすることになるとは思ってもいませんでした。

私は仙台市に住んでおり、地震やインフラがストップするという経験はしましたが、津波の被害には関係ない高台に住んでいたこともあり、震災当初から日本国際飢餓対策機構のボランティアとして、市内の倉庫で支援物資の仕分けや配布のお手伝いをしていました。それで石巻の支援をされていたディーン宣教師ご夫妻を通して、コタツ、毛布、衣類、パンの缶詰、自転車等を石巻まで運んでいただいたり、週末は石巻まで泥だしのお手伝いなどに通っていたのです。その中で、阿部兄とも出会い、石巻祈りの家の方々とのお交わりもスタートしました。

ある時、泥出しに来ていたアメリカ人のボランティアの方が、「自分は、生きるのに必要なものも、この地上での命が終わってから必要なものも、すべてキリストを通して与えられているので、今やる事は苦しみの中にいる人たちに仕える事だけだ」と話されるのを聞きました。本当にその通りだと思いました。そして自己満足や、自分の中で結果を出すためではなく、全てを与えて下さった神様の恵みの中であって、この被災地に生きている意味を考えながら歩んで行こうと思いました。

そんな中、仙台市若林区荒浜で被災した、みなし仮設の



方々に、震災から約1年後再会したのです。みなし仮設の方々は市内にバラバラに住んでおられたこともあり、震災当初から物資配布や情報収集の面で、避難所・仮設住宅の方々よりもさらに苦勞することも多く、私がボランティアをしていた倉庫にもたびたび来られていたのです。その方たちが、自助グループを作って情報交換やイベントなどをされており、手伝いが必要だと聞いたので、お手伝いすることになったのです。現在は、主に週1回開かれるお茶飲み会に来られる方々の昼食を作っています。また、国際飢餓対策機構の支援を通して知り合った、農家さんの手伝いにも行っています。そして時々、ディーン宣教師のお手伝いに、石巻希望の家のイベントにも参加させていただいています。

新約聖書の中で、イエス様は病の方、心に重荷を持っている方を訪ね、その問題を的確に判断し、癒し、救い、教える方であることが分かります。私もそれに倣いたいと願いますが、当たり前ですがうまくできない事ばかりです。でも、この7年で、その事がはっきりするより、神様が何をなさるかに目を向けることができるようになってきました。荒浜は、浄土宗のお寺から始まってできた集落で、現在まで約400年の歴史があり、約9割の方々がその檀家

です。私はイエス様と違って1度で問題を理解し解決することはできませんが、何度でも通って少しずつ理解することはできます。奇跡は起こせませんが、祈り続けることはできます。もしかして、この集落の歴史と同じくらの期間(400年)を経て教会ができる事が神様の御計画かもしれないと思えば、今何も起こらなくても、あきらめる必要はありません。そこに行きついた時、肩から力が抜け、この地で生きていくことが、「神様が何をして下さるのかを探る旅」のように思えました。

『人よ、何が良いことなのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。』(ミカ書6:8) この言葉は学生時代に学んだ箇所ですが、改めて神様と共に歩ませていただきたいと思います。